

関経連アセアン使節団 派遣報告

関経連は3月10日(日)～16日(土)、松本正義会長を団長、松下正幸副会長を副団長とする使節団をフィリピン、シンガポールに派遣した。フィリピンでは、財務省のほか労働関係の省庁・機関等を訪問し、シンガポールでは、自由貿易の推進および先端技術開発を促すエコシステムなどについて意見交換を行った。

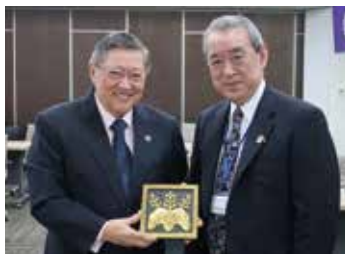
フィリピン・シンガポール訪問の背景

当会では「Look West」の視点のもと、アジアを重要なパートナーととらえ、アジアの活力を関西で生かすべくアジアとの交流深化に努めている。今回のアセアン使節団では、高成長が続くフィリピンと企業のアジア統括拠点が多く置かれているシンガポールを訪問し、ビジネス環境を把握するとともに現地経済団体との関係強化をはかった。

あわせて、アジア・ビジネス創出プラットフォーム(ABCプラットフォーム)の活動を展開するにあたり、両国のカウンターパートであるフィリピン商工会議所、シンガポール製造業者連盟を訪問し、参画を呼び掛けた。

フィリピン

フィリピンは、実質GDP成長率が高く、若年人口が多いことから、消費市場の拡大と労働人口の拡大が見込まれており、日系企業からもタイ、ベトナムに次ぐアセアン第3位の有望市場として注目されている。今回は、ドゥテルテ大統領のもと進められている包括的税制改革の日系企業への影響や、わが国で4月より受け入れ拡大が始まることとなった外国人労働者の課題等について懇談を行った。



ドミンゲス財務大臣との懇談



研修施設にて研修生と懇談

■ 税制改革の影響

今回の税制改革では法人税率が引き下げられる一方で、輸出企業に適用されてきた税制優遇が廃止されることが懸念されている。また、フィリピンに進出する日系企業は、経済特区庁の各種許認可、税務手続きに関する「ワンストップサービス」を活用してきたが、こうした手続きが煩雑になる恐れもある。カルロス・G・ドミンゲス財務大臣との懇談では、団員からこうした懸念を率直に伝えた。それに対し、大臣はこれまでの優遇措置が必ずしも投資の増加につながっていないと説明。その上で投資を呼び込むには国内のインフラ整備が重要であると述べ、その財源確保策の一つが今回の税制改革であるとして理解を求めた。また大臣は、大規模なインフラ投資計画「ビルド・ビルド・ビルド」についても紹介。インフラ整備により魅力的な投資先になること、鉄道延伸工事などの分野で日本企業にとってもビジネス機会の拡大につながることを強調し、日本からの投資を呼び掛けた。

■ 外国人材の受け入れに関する課題

多くの人材を海外に送り出している同国では、人材を育成し、送り出す体制が整備されている。一行は、技術教育技能開発庁の研修施設で日本語研修の様子を視察し、研修生と懇談を行った。研修生らは、日本で働くことを選択する理由として、日本に知人が多いことやイメージの良さなどをあげた一方で、日本語習得の難しさから、英語圏のカナダなどを選択する研修生が多いとも指摘した。

海外で働くフィリピン人の管理を行っている労働雇用省では、受け入れ先で必要とされる技能を明確化することで人材と仕事のミスマッチを防ぐ取り組みなどについて説明を受けた。また、団員も外国人材受け入れに関する各社の取り組みと課題について紹介し、活発な議論が行われた。

シンガポール

充実したインフラなどが強みであるシンガポールには、日系企業の多くがアジア統括拠点を置いている。政府はデジタル技術関連企業を重点的に誘致するなどして、イノベーション強化、労働生産性の向上に注力している。

自由貿易推進と先端技術開発

チャン・チュンシン貿易産業大臣からは、「CPTPP (TPP11) 発効における、日本政府のリーダーシップを高く評価するとともに、自由貿易を推進していくためにも日本・関西とのつながりを重視したい」との発言があった。さらに、CPTPP、RCEP (東アジア地域包括的経済連携) といった経済連携の推進に際しては、①具体的な経済メリットを示すこと、②世界に対するメッセージの発信につなげること、③参加国が国内調整をしっかりと行うことが重要だと述べた。

経済開発庁のバー・スワン・ジン長官は、今後のアセアンの成長性を強調し、そのゲートウェイとしてのシンガポールに対する日本・関西からの積極的な投資を歓迎すると述べた。

科学技術研究庁(A*STAR)は、イノベーションによる成長をめざすシンガポールの戦略を研究開発面で具現化する機関である。5年ごとに戦略を立案、予算配分を行い、毎年2,000件以上のプロジェクトに対し総額約3.4億USドルを投資している。タンプラン長官は、企業のコンソーシアムとA*STARが協力して業界団体全体を巻き込んだ研究開発事例などを紹介しながら、官民の緊密な連携のもとでエコシステムを形成していることを強調した。



チャン・チュンシン貿易産業大臣との懇談



バー・スワン・ジン経済開発庁長官との懇談

ABCプラットフォームへの期待

フィリピン：中小企業、人材開発、医療・介護分野

フィリピン商工会議所との懇談では、中小企業、製造、サービス、食品、ITなどの各分野で協力が可能との発言とともに、中小企業が集積する関西圏との協業への期待が述べられた。労働雇用省では、人材開発、医療・介護分野における協力の可能性が示されたほか、観光分野への関心も示された。

シンガポール：高齢化対応や観光分野

シンガポール製造業者連盟では、高齢化や労働力確保といった両国の共通課題の解決に向けて連携していきたいとの意向が示された。経済開発庁では、有望分野として、①精密機械、②食品・農業技術(特にバーティカルファーミング：都市部の限られた土地の室内で農業を行うことができる垂直農業)、③観光、の3点があげられた。特に観光分野は、シンガポール人の訪日観光のリピーター率が高いため、この大きな需要に対するマーケティングが必要との指摘があった。

関経連アセアン経営研修40周年記念レセプション

当会が1980年より毎年実施している「関経連アセアン経営研修」の40周年記念レセプションをシンガポールにて開催した。研修生OBを代表して挨拶したシンガポール製造業者連盟の会長であり、同国の国会議員でもあるダグラス・フー氏は、「経営研修を通じて培われた研修生のつながりは相乗効果を生んでいる」と経営研修生のネットワークの重要性を強調した。会場には11カ国から約45名の研修生たちが集い、関西への思いを語り合うなどし、親交を深めた。

今後の動き

当会では引き続き、アジア各国の情報収集を行うとともに、各国への訪問で得られた知見を、ABCプラットフォームでのビジネスメイキング活動につなげていく。また、アセアン経営研修により構築したネットワークを生かし、今後一層の強化をはかっていく。

(国際部 小西徹)



関経連アセアン経営研修40周年記念レセプション